

母指 CM 関節症

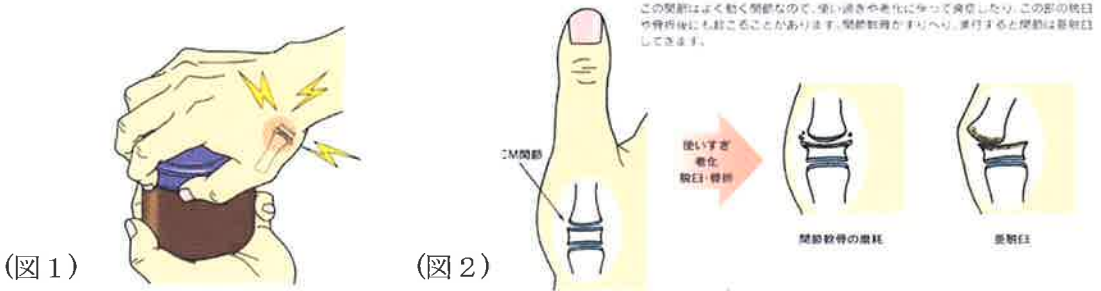
親指の変形性関節症(CM 関節症)は手関節の親指側の痛みの原因として、とくに中年以降の女性に頻度が高い疾患であり、高齢社会に伴い徐々に増加傾向にあります。母指は物を把持するために、日常生活において、また仕事上においても、他指との対立運動で必ず使用します。したがって、この母指 CM 関節の変形性関節症による機能障害が、日常生活動作や就業に影響します。

症状は・・・？

親指のつけ根の疼痛、腫脹、そして症状進行とともに不安定性、握力低下、つまみ力低下を訴え、運動時には捻髪音を認める事がある。とくに瓶のふた開け(図 1)、ドアのノブ操作時、和ばさみ、ホッチキス使用時、キーなどの施錠操作時に症状は増悪する。外観的には、親指のつけ根あたりで腫れて変形が見られます。

原因・病態

この関節はよく動く関節なので、使い過ぎや老化に伴って発症したり、この部の脱臼や骨折後にも起こる事があります。関節軟骨がすりへり、進行すると関節は亜脱臼してきます。(図 2)



診断

親指のつけ根を押さえると痛みや運動時痛があります。X 線検査で関節の変形があれば診断がつきます (図 3)。

治療は・・・？

保存的治療を行います。

投薬、関節内注射、固定装具 (図 4)、温熱療法などは有効です。

固定装具は最低 3 ヶ月間装着していただかないと治療効果ができません。



(図 3)



(図 4)